

## 7 月の日本語能力試験 (JLPT) 結果

N1 合格率 67%、N2 は 89%、N3 は 91%

非漢字圏でも 73%が N2 合格

7 月 2 日に実施された日本語能力試験の結果、N1 では 12 名中 8 名が合格しました。最高点は張捷明さん(台湾)の 176 点(180 点満点)でした。校内平均は 112.7 点でした。張さんは「言語知識」と「読解」の分野でそれぞれ満点(60 点)でした。(7 面に張さんの日本語勉強法についての記事)

N2 では、46 名中 41 名が合格。最高点は LinFrank さん(アメリカ)の 180 点(満点)でした。N2 には非漢字圏(アメリカ、インドネシア、タイ、マレーシア)からの学生が 11 名受験しましたが、そのうち 8 名(73%)が合格しました。校内平均は 124.4 点でした。

分野別では「言語知識」で LinFrank さん、王映之さん、趙悦婷さん、施培遠さん(台湾)、葉芳汝さん(台湾)の 5 名が満点(60 点)。「読解」の分野では LinFrank さん、WahyuHutama さん(インドネシア)、IntakalayaJapan さん(タイ)の 3 名が満点(60 点)でした。また「聴解」では LinFrank さん、王映之さん、柯伯叡さん、留郁捷さん、AtikaNataliaSasmita さん(インドネシア)、WahyuHutama さん、李華葦さん(香港)、李銘峻さん(台湾)の 8 名が満点(60 点)でした。

N3 では 22 名中 20 名が合格しました。校内最高点は林欣慧さん(台湾)の 147 点でした。

## 《日本語能力試験 N1 の校内成績上位者》

順位	氏名	出身	クラス	点数(180 点満点)
1	張 捷明	台湾	A	176
2	林 修平	台湾	D	141
3	沈 佑穎	台湾	A	138
4	邱 靖雯	台湾	B	125
5	許 世閔	台湾	C	123

## 《日本語能力試験 N2 の校内成績上位者》

順位	氏名	出身	クラス	点数(180 点満点)
1	Lin Frank	USA	A	180
2	王 映之	台湾	C	172
3	柯 伯叡	台湾	A	168
4	留 郁捷	台湾	D	164
5	趙 悦婷	香港	D	163

## 6 月の日本留学試験 (EJU) 結果

校内平均 264.5 点、87.5%が 200 点超

全受験者の平均を 37.3 ポイント上回る

6 月 18 日に世界 15 か国で実施された日本留学試験の結果、校内で受験した 32 名中、張捷明さんが「日本語」で 400 点満点中 355 点を取り、校内トップでした。(全受験者の最高点は 368 点。)

校内平均は 264.5 点で、全受験者の平均 227.2 点を 37.3 ポイント上回りました。昨年 6 月の EJU では 24.4 ポイントでしたので、今年の校内成績は非常に良いといえます。また、32 名のうち 87.5%にあたる 28 名が 200 点(専門学校の入学に必要な水準)に達していました。

校内 3 位で 346 点の柯伯叡さん、314 点の趙悦婷さん、306 点の頼宜廷さんら 13 名は、前学期(昨年 10 月～今年 3 月)まで初級クラスでした。その 13 名の平均点は全体平均を 15.4 ポイント上回る 242.6 点でした。

日本語の「記述」では、9 名が 45 点(50 点満点)でした。「総合科目」では鄭禹彤さん(台湾)が 196 点(200 点満点)、「数学 1(文系数学)」では陳韋佑さん(台湾)が 132 点、「数学 2(理系数学)」では張捷明さんと Yoganata Kristanto さん(インドネシア)が 124 点(200 点満点)、「物理」では Yoganata Kristanto さんが 65 点(100 点満点)、「化学」では張捷明さんが 65 点(100 点満点)、そして「生物」では Atika Natalia Sasmita さん(インドネシア)が 90 点(100 点満点)で、それぞれ校内最高点でした。

## 《日本留学試験「日本語」で 300 点以上の得点者》

順位	氏名	出身	クラス	点数(400 点満点)
1	張 捷明	台湾	A	355
2	Lin Frank	USA	A	347
3	柯 伯叡	台湾	A	346
4	陳 禾家	台湾	A	323
5	施 培遠	台湾	A	320
6	趙 悦婷	香港	D	314
7	頼 宜廷	台湾	B	306
8	鄭 禹彤	台湾	A	305
9	李 銘峻	台湾	A	301

【スピーチ最優秀賞】

## 「一人暮らしでも」

李 銘峻 (A クラス・台湾)

みなさん、こんにちは。この会場のほとんどの方は留学生なんです。去年来た人、手を挙げてください。たくさんいますね。では、今年来た人、手を挙げてください。うん..新鮮な感じがしますね。

日本の生活はどうか。特に私と同じように、一人暮らしをしている人、家族が自分のそばになくなってしまいましたよね。どうですか。寂しいと感じている人はいますか。あまりいないんですね。では、楽だと感じているし、「やっと家から逃げられた!」と思っている人はいますか。

やっぱり。自由なんです。何をやっても親に制限されないんですね。

一人暮らしは、確かに楽しいことがあります。ずっとゲームをやっている、誰も何も言いません。大好きなスイーツだけ食べてもいいです。大好きな人の写真を部屋中にはっていても問題ありません。

しかし、一人暮らしはもちろん面倒なこともあります。自分でやらなければならないことが増えてきたんです。特に、日本に来る前、料理なんて全然やったことがなかった私のような「おぼっちゃん」とっては、一人暮らしは、毎日がドラマのように大変で驚きでした。

私は炊飯器でご飯さえ炊くことができませんでした。最初のころ、水を入れすぎて、ご飯がお粥になってしまいました。私は、「じゃ、これをフライパンに入れて、野菜や肉を入れたら、お粥が乾いて、チャーハンになるかも!」と思って、フライパンに入れましたが、結果はもっとまズくなってしまうました。

誰かに聞かないとだめですよ。そして、私は同じ寮に住んでいた友達の呂さんに聞きました。彼女からはいろんな料理の作り方を教えてもらいました。水と米の割合とか、野菜の切り方とか、残りの料理の保存方法とか、まるで彼女は私を救う天使のようでした。

日本に来たとき、私は日本語が全然しゃべれなかったんです。それはどんな状況か、想像がつかますか。「はい」一つしか言えなかったんです。生活もできないし、日本語も話せませんでした。その間、わたしはいいたいどうやって生きていたのでしょうか。

みなさんは、日本の銀行口座を申し込んだことがありますか。日本語がわかる人は問題ないですが、私のような「はい」しか言えない人はどうしましょう。去年の4月、私は銀行へ銀行口座を作りに行きました。受付の前のいすに座って、銀行員と見つめ合いました。銀行員「今日は口座の申請をしますか」。私「はい」。銀行員「こちらは申請の注意事項。ゆっくり読んでください」。私「はい」。その後、銀行員が私のわからないことをいっぱいずっと話していました。私はずっと「はい」と返事していました。最後のほうは楽しみながら「はい」、「はい」と返事をしていました。よし、このままいけば、口座がゲットできるぞ!と思ったとたん、銀行員「なんのために口座を申し込みますか」私「はい」と返事をしたら、銀行員は困惑の表情を浮かべて、何回も「なんのために口座を申し込みますか」と聞きました。私も負けずに何回も「はい」、「はい」と返事していました。結局、銀行員は謝りながら、私の申請書をその場で破ってしまいました。そして私はこのとき「はい」は万能ではないことと、留学には助け合う友達が必要だということを知りました。

やっぱり一人で様々なことをやるのは大変ですね。困ったときには、やはり他の人と仲良くして一緒に困難を解決したり、お互いに助けたりするのがとても大切だと思っています。試験が終わったときとか、休みの日とか、友達と遊ぶのも楽しいではありませんか。

これからも様々な挑戦や予想外の状況が来るはずですが、それらは自分をより成長をさせることができるので、一人暮らしでも恐れなくて、たくさんの人と助け合って頑張っていきましょう。

これで終わります。ご清聴ありがとうございました。

【スピーチ優秀賞】

## 「私にとっての宝物」

趙 悦婷 (D クラス香港)

皆さんこんにちは。Dクラスのチュウ ユツ ティンです。

私は皆さんにお聞きしたいことがあります。音楽を聴くのが好きですか。楽器が弾ける人はいますか。音楽が皆さんの趣味かどうか私にはわかりませんが、実は音楽は日々の生活の中に溶け込んでいます。それで音楽はとても普通なものだとみんなが思っているかもしれませんが、私にとって音楽は宝物です。

私の両親は音楽が大好きで、きょうだい三人を音楽漬けで育てました。小学校二年生の時から九年間私は合唱団に参加しました。団員たちと様々な曲を練習して私はきれいな曲に感動させられていました。合唱団は国ではもちろん海外でも演奏会を行っていました。言葉が通じなかった時もありますが、観衆は私たちのパフォーマンスに良い反応をしてくれて、改めて音楽が凄いものだと思います。

音楽は世界の共通言語だと言われます。でも言語といえばイメージするのは言葉なのではないでしょうか。確かに生活の中で、コミュニケーションで毎日身の回りの人たちと自分を繋ぐのに言葉は欠かせません。ですが言葉が届かないこともたくさんあると思います。思い出してみてください。自分が伝えたいことを話し相手が理解し間違えたり分かってくれなかったりしたことが皆さん一度はあるのではないのでしょうか。残念ながらそれでは逆にコミュニケーションの壁になってしまいます。一方、音楽は言葉と同じで「音」ですが、音楽は誰でも共感できるものです。つまり、音楽は共通言語になり得るのです。

皆さんは日本語の勉強を始めたきっかけは何ですか。日本語が全く分からなかった時も好きなアニメやドラマをずっと見ていた人がいますか。登場人物が何を喋っているか分からなくても、ストーリーがどう進むか理解できると思いませんか。そう、音楽を通して役の気持ちがわかりやすくなります。例えば、ある二人が普通に話している画面を見て、(ストレスが入っている効果音を歌う)を聞くと、「ちょっとおかしいと思わない?」や「何かミスしたのかな!」などが想像できます。しかし、「意味くじ分からんさー」や「あーてーめーてーやぶらーや」しかなかったら、「一体何かあったの?」と思って迷う人がたくさんいるでしょう。ちなみに、「意味くじ分からんさー」は「意味が理解できないよ!」で「あーてーめーてーやぶらーや」は「もちろんあなたは馬鹿だね!」という沖繩弁でした。

そして音楽はコミュニケーションに大切であるだけでなく、コミュニケーションの中で最も大切なことも教えています。「ハレルヤコーラス」という曲を知っていますか。「ハレルヤツ」のようなメロディーを聞いたことはありますか。それは曲の中で一番目立つ部分で「メインメロディー」と呼ばれています。しかしみんなから愛されているこの曲はさっき歌ってくれた部分の他に、重要な役割の伴奏というものもあるのです。それは曲の主役ではなく、一つだけのことでもなく、高音や低音やパーカッションなどを混ぜてあるものです。ランダムに音を出すのは伴奏とは言えません。言い方を変えれば、伴奏のすべてとメインメロディーと協力しなければ、音楽を豊かにすることができないわけがありません。人間にも、もちろんメインメロディーのようなリーダーがいますが、伴奏のような「普通」な人や普通から離れていて「変」だと思われる人もいるでしょう。他の人と共に働く際に違う考え方を持っている人はいるかもしれませんが、社会では誰でも大切に、物事をうまく進めるために全員の意見を大切にすべきだと思います。

音楽は本当に素晴らしいものです。それは娯楽の一つでありながら、コミュニケーションの意味を私たちに教えています。音楽を通じて私は色々な素敵な人と出会うことができ幸せです。皆さんもぜひ、友達と、家族と、愛している人と、好きな音楽をどんどん楽しんで、その面白さを見つけましょう。

# ア ク テ イ ウ イ テ イ

○6月16日 国立劇場での**歌舞伎鑑賞教室**に19名が参加。演目は『毛坂』。英語で場面解説があり、外国人にも分かりやすいものでした。

○6月19日 国立能楽堂で5名が**能楽『黒塚』と狂言『附子』**を鑑賞。台湾の大学で『黒塚』のことを学んだという学生は、本場で舞台を見られて感激していました。

○7月3日 国立劇場で19名が**歌舞伎鑑賞**。約1時間半の『一條大蔵譚』でしたが、ロシアの学生は、言葉が分からなくても最後まで観たという達成感に満足していました。

○7月5日 **東京製菓学校で体験授業**。20名が参加し、ロールケーキ作りに挑戦しました。

○7月10日 **ヒコみづのジュエリーカレッジ専門学校**による体験授業。12名が思い思いのデザインでアクセサリ作りを楽しみました。

○7月14日 **江戸東京博物館**にサマーコースの学生10名を引率。チケットは高木啓理事からたくさんいただき、他の学生たちも、夏休み中に歴史を勉強することができました。博物館見学の後、有志はスカイツリーに行きました。

○7月16日 **高田馬場管絃楽団のコンサート**を34名が鑑賞。森山先生のお父様(森山崇さん=写真中央)が指揮するオーケストラの演奏会に、今回初めて井上校長が出演とあって、大勢の学生が聴きに行きました。ブラームスの交響曲第1番やベートーベンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」などの生演奏に、感動していました。



○7月18日 校内で**浴衣着付け教室**。25日の花火大会鑑賞で浴衣を着る学生を対象に、着付けの仕方を指導しました。約40名が参加。講師は卒業生の陳紫瑩さん(香港)とJETの先生です。

○7月21日 得猪先生が美しい和服姿に変身して行われる**茶道体験**。35名が、金沢の有名なお菓子と抹茶をいただきました。

○7月22日 **筑波山ハイキング**。井上校長らが学生14名を引率し、日本百名山の一つ筑波山(茨城県)に登りました。

8月に富士山に挑戦する学生のために、毎年この時期、東京近郊の山で「トレーニング」を行っています。山の歩き方、服装や装備について学びました。約3時間の登りでは息が切れたり、下りで「膝が笑う」学生もいて大変でしたが、けがも落伍者もなく充実の山旅でした。



○7月25日 浴衣で下町散策と**花火大会見物**。葛飾柴又で行われた花火大会に約90名の学生が出かけました。花火といえば浴衣!浴衣を着ていく人は事前に着付けの練習を何度も何度も、覚えるまで練習しましたのでほぼ一人で浴衣を着られるようになりました。当日場所とり班が江戸川についたときは少し雲がありましたがJETの太陽神・山口先生のおかげか、開始直前には雨雲も姿を消し無事に花火大会開始!初めて浴衣を着たり、初めて場所取りをしたり、初めて日本の花火を見たりと、初めて尽くしの日本の夏を満喫しました。(森山翔)



○8月4日 **東京ドーム**で巨人×中日戦。元野球選手兼監督の岡田安弘先生の引率で、14名が野球を観戦しました。ホームラン連発の試合展開で、たいへん盛り上がりました。日本の応援の仕方も学びました。

## 大学生との交流活動(5面の続き)

8月2日、3日 国際交流サークル「ネイバー」の大学生のべ8人が来校し、サマーコースのクラスで交流授業。

8月10日 SNIE(国際交流大学連絡協議会)の大学生ら3人が来校し、サマーコースのクラスで交流授業。

8月1日~5日 東京女子大学での夏の日本語クラスに4名参加。職人さんにインタビューをするなど普段できない体験をして、とても有意義に過ごしたようです。

# 学 校 日 誌

- 6月1日 **企業経営者との意見交換会** 前期の校内就職セミナーの締めくくりとして、東京商工会議所北支部の協力により、学生が企業の経営者に、様々な質問をぶつけ、就職のアドバイスをさせていただき会を開催しました。



- 6月14日 **大学・大学院フェア(QtoJAPON主催)** 都内の有名大学6校による説明会を校内で実施しました。

- 6月20日 **漢字進級テスト** 7級クラスの Irena Tanutama さん(インドネシア)は見事満点で合格し、飛び級で5級クラスに進級しました。

- 6月26日、28日、29日 保健所で**健康診断**

- 6月26日 **大学院研究計画発表会** 来春に大学院に進学する学生9名が、自分の研究テーマについて発表をしました。2016年3月に茨城大学院を修了して日本で就職をしているOBの蘇育廷さん(台湾)が、当日たまたま遊びに来ていて、後輩たちにアドバイスをしてくれました。

- 7月6日 **避難訓練** 授業中に校舎から出火したという想定で、北谷端公園に避難する訓練を実施しました。

- 7月7日、11日、13日、19日 北区の防災センターで**防災訓練**。大地震も体験しました。

- 7月20日 **大原ビジネス専門学校**による**面接講座**を専門学校進学指導の一環として校内で開催。

- 7月20日 **辻調理師専門学校**の説明会を校内開催。

- 8月24日 専門学校に進学した**先輩を招いて座談会**。黄千芸さん(台湾・2017卒)、Natashaさん(インドネシア・2016卒)、Rhesaさん(インドネシア・2017卒)の3人からアドバイスを受けました。

## サマーコースに27名

今年度のサマーコースには27名が参加しました。台湾から22名、アメリカ2名、ロシア1名、インドネシア1名、韓国1名です。6月30日にクラス分けテストとオリエンテーションを行い、7月3日から授業がスタート。コース期間は4週間(7月

28日まで)、6週間(8月11日まで)、3ヶ月(9月22日まで)の3種類ですが、7月31日から8月11日までの2週間は特に会話に特化したプログラムになっています。

日本語を勉強しながら、歌舞伎、茶道体験、オーケストラコンサート、花火大会見物、筑波山ハイキング、プロ野球観戦、専門学校での体験授業、江戸東京博物館、大学生との交流会など盛りだくさんのアクティビティーを楽しみました。

8月11日、会話コースの最終日には、寸劇『注文の多い料理店』の発表と、さよならスピーチを行いました。新しくできた友人との思い出を語り、別れを惜しむ学生たちは涙に濡れていました。

## タイの大学で就職セミナー

6月8日、バンコクにあるパンヤピワット大学(PIM)で、ビジネス日本語科の3年生約40名を対象に、井上校長が日本での就職事情について講義を行いました。



企業人材育成に力を入れるパンヤピワット大学は今年創立十周年を迎えました。

## 初めての台湾出張記

木村 晴美

これまで台湾を訪れる機会がなかった私にとって、今回の出張は留学フェアに参加してJETをアピールする目的もさることながら、学生を育んだ土地の力を感じる出張となった。高雄の空港で飛行機を降りた瞬間、湿気が体にまとわりついてきた。

高雄出身の学生がよく「高雄は蒸し暑いですよ」と言っていたことを思い出した。換金もタクシー探しもスムーズにはいかない。初めて日本に来た日本語初心者の学生がそうであるかのように。改めて「外国」を実感した。

翌日、どんな人との出会いがあるかとわくわくしながら、高雄の会場でブースの設営を始めた。すると卒業生達がどこからともなく現れた。手際よくブースの設営を終えたかと思うと、もうパンフレットを片手に呼び込みを始めるではないか。得猪先生に伺うと、20数年前から最近までの卒業生が何人もいて、毎年手伝いに来てくれているとか。頼もしい卒業生である。先輩から後輩へと脈々と繋がっている絆、これこそJETの強みだと得心がいった。彼らはJETで充実した生活を送っていたに違いないと確信した瞬間でもあった。台北のフェアでも来訪者は途切れることなく続いた。フェアの終了時間になって急いで片づけ始める私に、「先生、ここは東京じゃなくて台湾だから、ゆっくり片づけて大丈夫。」卒業生のこの言葉が今も心に響いている。

## フランス人学校で交流

6月20日にEクラスの学生が東京国際フランス学園の子どもたち(4年生15名)と交流会を行いました。

JETの学生たちは元気いっぱいの子もたちを目の前にして、緊張していた様子でしたが、すぐ打ち解けて笑顔があふれていました。グループになって子どもたちからの質問に答えたり、自分たちが母国の紹介したい物を絵や写真などを見せながら、説明したりしました。子どもたちも興味をもって、積極的に質問をしてくれました。最後はフランス学園の子どもたちにフランスの国歌を歌ってもらい、見送っていただきました。当校の学生は自分たちが準備した物が上手に披露でき、満足した様子でした。終了後も校庭で鬼ごっこなどをして、充実した交流会ができました。(岡田安弘)



←香港のことを紹介する張立芳さん(中央)

## 高校で台湾紹介と中国語講座

7月14日、都立狛江高校の2年生各クラスで、JETの台湾人学生が、台湾の紹介と中国語講座を行いました。同校では10月に台湾への修学旅行があるため、2年前からJETの台湾人学生有志がその事前学習のお手伝いをしています。今年は24名が3人ずつ8クラスに分かれて、台湾のおいしい食べ物や観光スポットなどを紹介しました。中国語の指導では、数字を指で表現しながら発音を練習したり、買い物の時の会話などを教えていました。

1クラス40人もの高校生の前で日本語を話すのは、かなり緊張するものですが、事前にしっかりと準備したため、台湾のことを知ってほしいという熱意が伝わるとてもいい発表でした。さまざまな気づきの機会にもなったようです。



指で表現する数字の「9」は難しい! 何回も何回も練習しました。

## 大学生との交流活動

6月2日 SNIE(国際交流大学連絡協議会)の大学生2人が来校しDクラスで交流授業。

♪ ♪ ♪

6月8日 日本事情クラス「大学生との交流」開講。この日は大学生6人が来校。4回シリーズの授業で、5分程度の動画を作成し、最終回(9月14日)にはプレゼンテーションを行いました。JETではこれまで単発的な交流授業は何度も行なってきましたが、今回は大学生との協働作業を通じて継続的な交流を図り、コミュニケーション能力の一層の向上を目指しました。

第1回 (6月8日)	大学生6名参加。前半、6グループに分かれて交流会。自己紹介から始まり、決められたテーマで15分ずつ話す。後半は動画撮影の各グループに大学生が入り、「日本の夏」をテーマに話す。
第2回 (7~8月)	大学の都合と合わなかったため、各グループで第2回目の日程を決め、どんな動画にするか、いつ動画を撮影するかなど打合せ。7月の2週目までに全グループが打合せを終えた。7月~8月の夏休み期間中に動画撮影。
第3回 (9月7日)	大学生6名参加。3グループが動画を発表。各グループ、プレゼンテーション含め約15分の発表。後半は「私の夏休みの自慢の体験」をテーマに話し合う交流会。
第4回 (9月14日)	大学生3名と目白大学の河野先生が参加。残りの3グループが動画を発表。後半は自由に交流&ゲーム。

異文化間コミュニケーションが専門の河野秀樹先生(目白大学)は、第4回の授業に参加し、「動画の作成が上手く、日本人も留学生も一緒に笑える場面を自然に創りだしている。JETの開放的な雰囲気が作用しているのだろうか。」と感想を述べられていました。

♪ ♪ ♪

6月25日 SNIE主催の東京オリエンテーリングにJETから5人が参加。生憎の雨でしたが、大学生と上野や浅草などを観て回りました。

7月5日 早稲田大学の国際学生友好会(WIC)の日本教室に7人が参加。

7月14日 拓殖大学の学生2人が来校し、Fクラスで交流授業。(3面に続く)



大学生を授業に招いて、小グループでディスカッション。

## 多くの来賓迎え、校内スピーチ大会

### 最優秀賞は李銘峻さん

7月28日、第23回校内スピーチ大会が開催されました。7クラスの代表15名が熱弁をふるい、最優秀賞には李銘峻さん、優秀賞には紀建宏さん、趙悦婷さん、朴庸準さんの3名、努力賞には張捷明さんが選ばれました。(3面参照)

今回は20名の方が観覧に見えました。元NHKアナウンサーで現在は文化外国語専門学校校長の古谷和雄先生からは、「言葉に力がある」との評をいただきました。

大会を盛り上げるポスターは呉鴻旻さん(台湾)と Felia Tanri さん(インドネシア)が作成しました。

また、優秀賞の賞品のひとつ、輪島塗の漆器を漆工芸作家の垣内幸彦様よりご協賛いただきました。

(台湾)が司会者として、2時間立派に務めました。JETの他の学生たちもしっかりと日本語で自分の考えを述べており、普段学校では見せない表情で語っていました。

やっさ祭りパレードはあいにくの雨でした。みんなびしょ濡れになりながらも、最後まで踊り切りました。許庭翊さん(台湾)は、「本当に大変だったけど、一番いい思い出」と感想を語っていました。



8月2日に行われた Youth Summit 2017 in Yugawara の様子

## 文化庁日本語教育大会でパネル登壇

8月26日、井上校長が文化庁主催の日本語教育大会(第1日目)でパネルディスカッションに登壇しました。大会のテーマは「これからの日本語教育における人材像」。JETは日本語教師養成講座や大学から輩出される人材を受け入れる立場から、求められる教師像について話をしました。中でも校長の「華のある教師が求められる」という発言は、会場で反響を呼びました。

また、「日本語教師という職業の魅力を、若い人たちにもっと理解してもらい、日本語学校で教育に当たる人材を幅広く育てていくべき」という校長の提言は、アンケートの回答でも共感が得られていました。

ディスカッションの様子は、YouTubeで見られます。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDjoGdKWNhLbCmh83blQrhm](https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lm bDjoGdKWNhLbCmh83blQrhm)



右から、越野理事長、李銘峻さん、朴庸準さん、趙悦婷さん、紀建宏さん、張捷明さん、井上校長

#### 【出場者の氏名、クラス、国籍、演題】

1. 陳柏均 (F・台湾)「過去を見ないで、前を見よう」
2. 趙悦婷 (D・香港)「私にとっての宝物」《優秀賞》
3. Felia Tanri (C・インドネシア)「辛さから力に」
4. 魏亭婷 (G・台湾)「パソコンが壊れた…!」
5. 李華葦 (A・香港)「香港の子ども」
6. Richard Alexander (B・インドネシア)「日本語と私」
7. 張捷明 (A・台湾)「発酵食品って何?」《努力賞》
8. Nurkhayati (E・インドネシア)「夢の階段、1歩ずつ」
9. 李銘峻 (A・台湾)「一人暮らしでも」《最優秀賞》
10. Yutika Sirinthep (E・タイ)「おもてなしの心」
11. Irena Tanutama (D・インドネシア)「人々の季節」
12. 許世閔 (C・台湾)「トライアスロンの魅力」
13. Pheng Wai Kit (G・マレーシア)「使って楽しい外国語」
14. 朴庸準 (B・韓国)「一瞬で変わった日本の見方」《優秀賞》
15. 紀建宏 (F・台湾)「言葉以外のコミュニケーション」《優秀賞》

## 湯河原ホームステイで最高の思い出

神奈川県湯河原町で行われる、やっさ国際交流ホームステイ事業(7月30日~8月6日)にJETから7名の学生が参加しました。「Youth Summit 2017 in Yugawara」というディスカッションでは、ホームステイプログラムに参加している18名の留學生が日本と自分の国についての違いなどについて意見を発表しました。JETの王銘甄さん



文化庁で行われたパネルディスカッションには約370名の聴衆が集まりました。井上校長(右から2番目)の左4人がパネルディスカッションの登壇者。

## 就職の卒業生、地元紙が紹介

今年の春 JET を卒業し、岡山県の土木関係の会社に就職した  
パーウィーさん(タイ)の活躍が地元紙に取り上げられました。

### 製品知識深め、海外売り込む

パーウィーさん

「ものすごく前向きで向上心が強い。男性中心の業界で本当によく頑張っている。僕らも見習わなくてはいけない」。上司の評価は上々だ。

道路インフラの整備事業などを手掛けている山陽ロード工業(本社・下高倉西)で、今年4月から働き始めたタイ出身のアモンノッパットタナクン・パーウィーさん(24)。海外営業担当として入社後、製品の知識を深めるために CAD 技術を習得し、自社製の風速60メートルにも耐えられるという大型遮断機などを現場に応じた仕様にするための図面作製に取り組んでいる。

同社では東南アジアを中心に海外展開に向け準備を進めているところ。「山陽ロード製品は高品質。知識を深め、日本国内だけではなく海外にも売り込みたい」と意気込みを流ちょうな日本語で話した。

(津山朝日新聞 2017年9月1日「ひと散歩みち」より)

## 大学合格第1号

趙悦婷さん(香港)が、早稲田大学のスポーツ科学部に合格しました。趙さんは昨年10月、初級クラスに入学、今年4月からは中級クラスに進み、自力で受験準備を進めてきました。7月の日本語能力試験ではN2級を受験し、180点満点中163点という素晴らしい成績で合格しました。大学の入学は来年4月ですが、あと半年 JET でさらに日本語を磨きます。

★ ★ ★

## 進学後の奨学金の予約2名

6月の日本留学試験(EJU)で高得点を修めた学生が、来年度進学すると受給される学習奨励費を予約できる制度で、JET からは LinFrank さん(USA)と柯伯韻さん(台湾)の2名が選ばれました。文科省が支給する学習奨励費は毎月48,000円です。

## トピックス

### ●大学との連携に第一歩

大東文化大学が JAPANTAG コンソーシアム加盟校(JET を含む首都圏の日本語学校5校)と、渡日前入学許可の提携で合意。さらに単位互換制度についても協議中です。大学と日本語学校の連携は長年の課題でしたが、画期的な第一歩をふみだすこととなります。

### ●自己点検・評価の結果公表

昨年9月から井上校長、得猪教務主任、山口主任教諭、木村生活指導主任、森山先生の5名が取り組んできた自己点検・評価が取りまとめられ、7月にホームページに公表されました。

### ●高木啓理事が8月から副理事長に就任

越野理事長を補佐し、対外的な活動に力を発揮していただきます。

## 《私の日本語習得法》

## 好きな声優の台詞を何度も聞く

張捷明(台湾)

私は今年7月、日本語能力試験(JLPT)を初めて受けました。いきなりN1を受けたのですが、なんと、校内一番の高得点で合格しました。私自身すごくびっくりしました。それは、JETに入るまでは日本語を学校や塾で学んだことがなかったからです。全て自学でした。

私は「声優」が大好きです。たとえば、下野紘、沢城みゆき、梅原裕一郎です。下野紘は「進撃の巨人」などに登場、沢城みゆきは「ルパン三世」の峰不二子役などを演じて、とても有名ですが、梅原裕一郎はあまり知られていません。マニアだけが知っている大人の渋い声です。中学の時から暇さえあれば、声優が登場するテレビ番組、日本のラジオ番組(ネットで聞ける)、幕張メッセなどで行われるイベントなどに浸っていました。テレビやDVDの場合、最初は中国語の字幕がなければ何もわかりませんでした。有名な声優の台詞には字幕がつきますが、私の好きな声優は全てがメジャーなものではありません。そうすると、翻訳されていない場合もよくあります。そこで、好きな声優は何を話しているかがどうしても気になりますので、何度も何度も見て、分からない言葉を辞書で調べました。そのせいか、いつの間にか字幕なしでも分かるようになりました。

JETに入ってから気付いたことは、なぜ文法も学んだことがないのに、日本語がわかるのかです。それは文法も語彙として覚えたからです。つまり、子供が自然に母国語を覚えるように、文法が身についていたのです。ですから、実のところ、私は自動詞他動詞といった留学生にとって基礎的な文法を説明できないです。この方法で自学して来た私は一つ大事な能力を身に着けました。言葉の正しい使い方、つまり、どの場面での言葉が適切かがなんとなくわかるようになったのです。

この六年間、声優への愛こそが私の日本語の上達を促しました。ですので、キャラクターでもいい、俳優でもいい、日本の誰かに興味を持っていれば、日本語は上手になれると私は信じております。

≫JET この30年≪

## 修了2090人、進学1242人に

1988年4月に学生を受け入れ、1990年3月に最初の修了生73名を輩出して以来、2017年3月までに2,090人が修了しました。(短期の終了者は除く。)

修了者のうち日本の高等教育機関に進学したのは合計1,242人に上りました。進学先の内訳は、大学院が186人、大学が504人、専門学校が506人、その他が46人でした。

昨年度(2017年9月と2018年3月)の修了者は105人で、進学者は50人(大学院6人、大学20人、専門学校24人)でした。

## 子どもやお年寄りとかげがえのない体験

7月から9月にかけての3~7日間、北区内の保育園やデイホームでお手伝いをする北区短期国際交流プログラムに、JETから11名が参加。保育園では幼児らと、デイホームではお年寄りたちと、言葉だけではない様々なかたちのコミュニケーションを通じて、かげがえのない貴重な体験をさせていただきました。



保育園の子どもたちと笑顔で接する台湾の錢郁涵さん(右奥)

### ★平成29年度短期国際交流員事業に参加した感想★

## 盆踊りとタイダンスを教え合う

シリントープ・ユティカ(タイ)

受入施設：デイホーム

短い時間でも、とても楽しくて、いい経験になりました。デイホームのスタッフはとてもやさしくて、いつも応援してくれました。例えば、働くことや勉強することなどです。それに、お祖母さんとお祖父さんもとてもやさしくしてくれました。毎日、一緒に運動したり、ゲームをしたりしました。

一番楽しかったのは、盆踊りをしたことです。形を教えてくれて、音楽と一緒に踊ってみました。とてもいい思い出です。ある日、浴衣を着ました。私はタイの文化を紹介してあげました。例えば、タイ料理やタイの観光地やタイのダンスなどです。そして、タイのダンスを教えてあげました。お祖母さんとお祖父さんの顔を見て、楽しくて、幸せになりました。

デイホームで働くことで、日本語をたくさん使って、日本の文化や礼儀も学べました。私にとって、いい夏休みでした。もし、時間があれば、デイホームのスタッフさんとお祖父さんとお祖母さんを訪問しに行こうと思っています。みんなの幸せそうな顔が忘れられないからです。

今回の短期国際交流会は、いい経験になりました。どうもありがとうございました。

井 井 井

## なんでも自分でやる子供たち

ヌルハヤティ(インドネシア)

受入施設：保育園

短期国際交流員事業に参加して、楽しかった。初めて来た時は何をするか分からなかったから、緊張した。でも少しずつ子供達と遊ぶことができるようになって、本当に嬉しかった。それに、この保育園で日本人の子供のころからの育ち方を知ることができた。

日本人の子供は全部自分でやっている。例えば、食べる時に自分で食べて、自分で準備している。一歳でもスプーンで、自分で食べている。それに寝る前にも一番年長のクラスが年少のクラスの布団の準備を手伝ってあげていた。子供はかわいくて、元気に遊んで、たまに喧嘩していた。

私は、そんな様子を初めて見た時はびっくりしたけど、本当にいい経験になった。またチャンスがあれば、またボランティアになりたい。ありがとうございました。

## 9月に21名修了

9月22日、各教室を校長が巡回して「ミニ卒業式」を行いました。日本語1.5年コースの修了者が7名、1年コースは14名で、合計21名に修了証書が授与されました。

♪ ♪ ♪

## 皆勤賞6名

9月修了者の中、6名が皆勤賞を受賞しました。1.5年の皆勤は蕭伊倫さん、葉芳汝さん、王銘甄さんの3名。1年間の皆勤は江仁傑さん、林修平さん、楊凱婷さんの3名で、全員台湾人でした。後援会から図書カードが贈られました。



左から井上校長、楊凱婷さん、葉芳汝さん、蕭伊倫さん、江仁傑さん、林修平さん、王銘甄さん

♪ ♪ ♪

## 10月就職3名内定

修了生のうち3名が日本で就職することになりました。化粧品の販売員を派遣する会社、デパートなどでアクセサリー販売店を展開する会社、コンピュータ関連会社です。他に4名が日本で就職活動をする予定です。